



概要説明資料

(株)NTTデータ
ビジネスイノベーション本部
子ども安全連絡網 事務局



1.現状の連絡手段における課題

現状の電話連絡

- ◆ 連絡に時間がかかる
(伝言形式の弊害)
- ◆ 情報の正確性が問題
(伝言形式の弊害)
- ◆ 連絡先情報の管理が困難
(管理者責任での収集限界)
- ◆ 手間や負担が大きい
(張り付き人件費コスト大)

メール一斉連絡網

- ◆ スピードアップ
(一斉連絡により解決)
- ◆ 正確性
(テキスト送付で解決)
- ◆ 受信者からの登録
(空メール登録で解決)
- ◆ 安価な導入コスト
(学校にサーバ設置で解決)

残された課題

- ◆ メールを利用していない人に対して別途連絡が必要
- ◆ 電波状況等の問題で、メールが伝わらない時がある
(多メディア対応で解決)
- ◆ 悪意を持った人も登録できてしまう
(受信対象者を特定)
- ◆ 故障対応やウィルス対策などの新たなネットワーク管理コストが発生する
(集中管理で解決)

肝心なときに連絡が正確に伝わらないのでは、緊急連絡としての役割を果たしません。

その問題の解決策として、常に複数のメディア(メール・電話・FAX)に一斉伝達できる仕組みが望ましいのです。多メディアに対応するための、電話・FAX回線の確保・人的な配置等を考えても行政及び学校が単独で用意することは難しい現状です。



子どもを思う **親の気持ち**で考え抜いた結果です。

多メディアに対する一斉連絡の
仕組みが今こそ必要です。

子どもに関する情報だからこそ、
正確・迅速・公平に全ての人に！

正しい情報、的確な指示を全員に伝える手段
として、今の連絡体制で安心ですか？
誰も排除することなく、伝えるべき人達に
伝えるべき事を簡単に伝えられる。
安心して気軽に利用できる安定したサービス。

子どもは、かけがえの無い宝物。
伝えられない人をつくらないために。

ママさん社員が
発案しました

「子ども安全連絡網」は、小学生の
子どもをもつNTTデータのママさん
社員が、自分のPTA役員の
経験から「こんな仕組みが
あったらいいな」と思った
アイデアを実現しました。

こんなサービスが
欲しかった！





3.FairCast-子ども安全連絡網 とは

「**正確**な情報を関係者へ**迅速**かつ**公平**に**伝達**する」ことで、子どもたちの安全と保護者の安心をサポートする 多メディアに対する一斉連絡サービスです。

● 3大特長

- ◆ メール・電話(音声)・FAXへの一斉(追いか)連絡が可能
- ◆ タイムリーな送達状況確認が可能
- ◆ 個人情報のセキュリティー対策が万全

● その他の特長

- ・ 公立小学校での実証実験を通じて得た運用ノウハウ
- ・ 通信料込みのリーズナブルな利用料金(家庭単位の課金)
- ・ 緊急時だけでなく、PTAなどの日常的な連絡網としても利用可能
- ・ 機器購入・専用パソコンなど一切不要。インターネット環境があればすぐにサービス開始

●登録の流れ

◆お申込み～利用開始

(1) ID番号票配布
(各家庭1枚)



(2) ご自身による登録



(3) テスト配信の際、
送達確認方法を確認



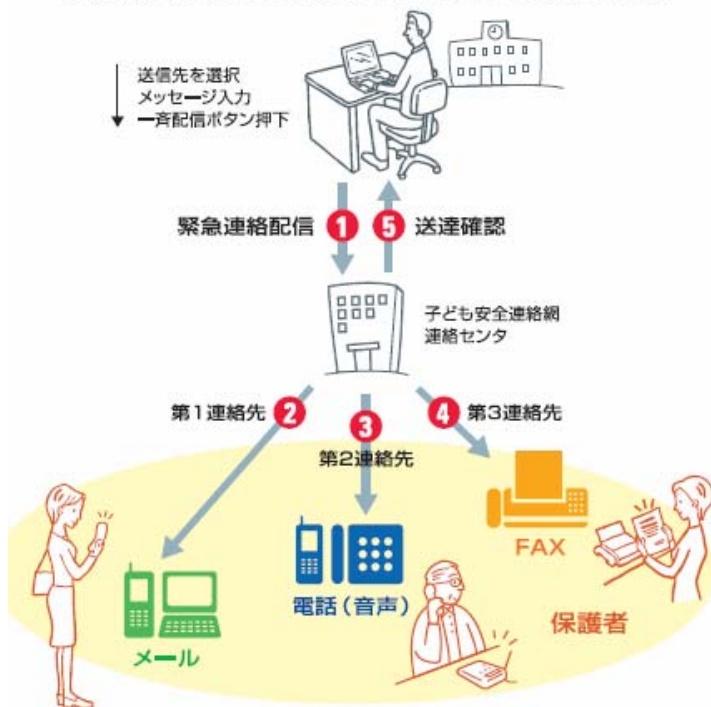
(4) サービスによる
情報受取り開始

●サービスの流れ

緊急時をはじめ通常時の連絡まで、一斉連絡が必要な場面で幅広く活用できます

緊急連絡時

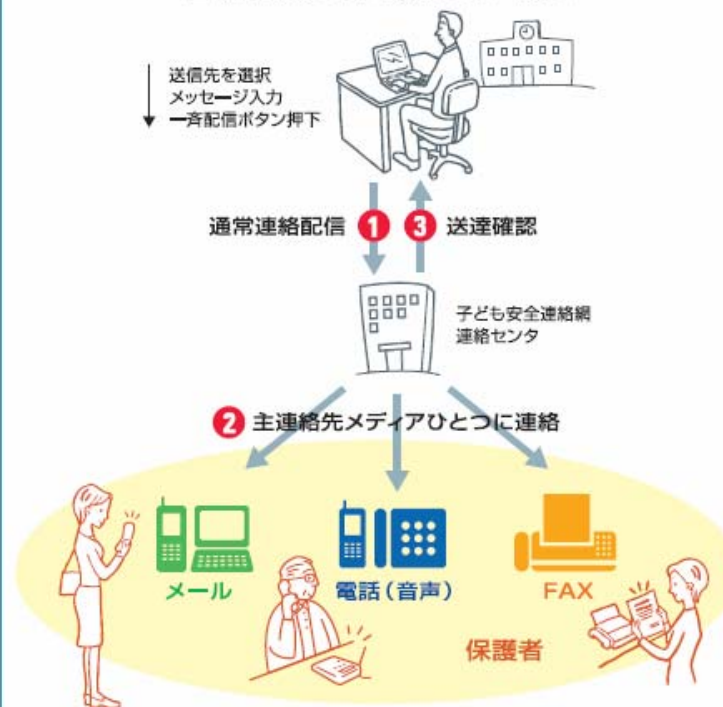
緊急行動の指示(招集・送迎) / 安否状況の確認



緊急時は一刻も早く確実に情報を伝達する必要があるため、
《第1連絡先》→《第2連絡先》→《第3連絡先》の順に、
送達ができるまで一斉連絡を行ないます。

通常連絡時

各種事務連絡 / お知らせ・報告



通常時は、原則として登録されている連絡メディアのうち、
ひとつに対して一斉連絡を行ないます。



5.送ることのできる情報種別

連絡内容によって、情報種別を<通常>と<緊急連絡(追いかけて連絡)>に区分けして、連絡の届け方・届け先を指定することが可能です。

●情報連絡の種別

通常連絡(1ポイント消費)

- 一定時間までに、受信対象者全員に周知が必要な情報
- 各家庭の中で、主に連絡を受け取る必要のある方の宛先だけに連絡
- 例) 携帯メール(ママが確認&パパはCC)
(メールの場合は2箇所、電話・FAXは1箇所)

緊急連絡(3ポイント消費)

- 一刻も早く、受信対象者全員に周知が必要な情報
- 第1、第2、第3連絡先に15分間隔で追いかけて連絡
- 例) 第1連絡先 携帯メール(ママが確認&パパはCC)
第2連絡先 携帯メール(パパが確認&ママはCC)
第3連絡先 固定電話(祖父母宅)
- ※各家庭ごとに緊急時の連絡の受け取り方法についてよくご相談の上、ご登録ください



正確・迅速・公平に伝えられる**安心・安全**な仕組みを、**安定**してお届けしたい。

多メディアに対する一斉連絡の
仕組みが、今こそ必要です。

子どもに関する情報だからこそ、
正確・迅速・公平に全ての人に！

誰も排除することなく、伝えるべき人達に
伝えるべき事を簡単に伝えられる。
安心して気軽に利用できる安定したサービス。

伝えられない人をつくらないために。

ユーザビリティに
徹底的にこだわりました。

ご利用いただく皆様にとって使いやすい
仕組みでなければ！

難しいと使えない。使わない。使いたくない。

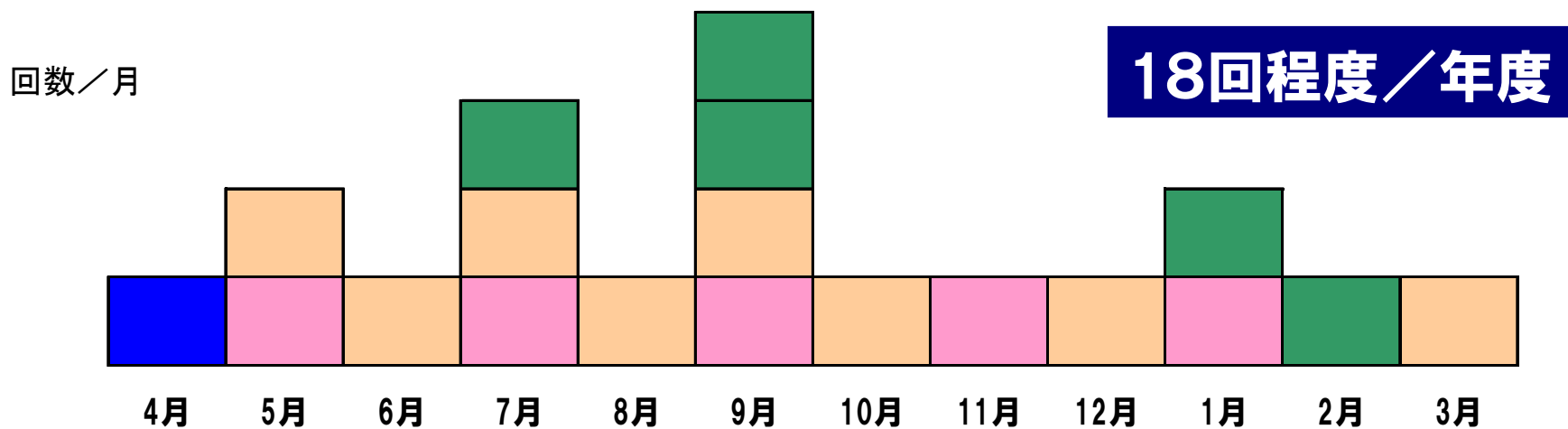
簡単に、より簡単に、使いやすさを
追求したらこうなりました。

情報通信サービス会社であるNTTデータから、新しい連絡網サービスをご提案します。



(参考)通常、年に何回くらい利用するものでしょうか？

- ・以下に示す表が、実証実験を通じて得た、学校生活における通常の利用シーンです。
- ・この中には、学級閉鎖や学年だけのお知らせも含まれています。
- ・通常連絡を頻繁に発信すると、『大事なお知らせかどうかわからなくなる』といった保護者の声が出てきました。



- ……テスト配信
- ……定期的な連絡
- ……学校行事に関する連絡
- ……下校時刻変更のお知らせ

目的

送達確認方法をキチンと習得するために必ず実施して下さい。

発信側、受信側が普段からなれておくことが大切

社会見学・遠足・運動会・修学旅行・給食終了などの連絡

台風・インフルエンザなどによる学級閉鎖などの下校時刻変更

(参考)通常連絡の利用シーン

お知らせや報告など、初動対応が必要でない通常連絡



主連絡先メディアに一斉連絡

普段の学校運営に役立つ情報

通常

- ・台風や学級閉鎖による下校時刻変更
- ・学校行事の開催有無
- ・PTA役員会開催周知
- ・廃品回収実施のお知らせ
- ・訃報連絡

など



(参考)緊急連絡の利用シーン

保護者の初動対応が必要な緊急連絡

発信主体：学校

児童を乗せたバスが故障のため
滞校が19時頃になりますので、
保護者の方は学校に迎えにきて下さい。

教職員への連絡です。
夜間に学校の窓ガラスが割られました。
至急、学校に集合して下さい。



学校に不審者が侵入しました。
子どもたちは全員無事で心配は
ありません。保護者の方は児童の
引き取りをお願いします。

第1



第2



メールへの送達確認が
できなかつた場合、
電話へ連絡



第3



電話への送達確認が
できなかつた場合、
FAXへ連絡



登録優先順に追いかけて連絡。

緊急突発的な事件・事故を全員に
お知らせします。

例)

- ・子どもたちの生命にかかわる危険情報
- ・学区内で刃物を持った不審者が逃走中
- ・初動対応が必要な緊急連絡 など

緊急
連絡